

大学の世界展開力強化事業（ASEAN対象プログラム）

令和2年度採択大学連絡会

日 時：令和3年3月9日（火）13:45～17:00

場 所：オンライン開催

「令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括」 ～コロナ禍の各大学の現状とポストコロナの学生交流の方針～

○京都大学／関西大学

気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ
人材育成プログラム

令和2年度の事業実施状況と これまでの総括について

コロナ禍の現状とポストコロナの学生交流方針



**International Program on Resilient Society
Development under Climate Change**



本プログラムの対象領域

気候変動による深刻な影響を受けているインドシナ半島のすべてを対象領域とし、国際教育交流プラットフォームの設立。



本教育プログラムの内容

9年間英語一貫教育プログラム

学部生

1 集中講義を組み合わせた海外企業体験プログラム

▶ ASEAN 諸国のインフラ整備現場経験と集中講義

修士課程

2 双方向短期留学プログラム

▶ 日本・ASEAN の学生が日本・ASEAN 両方の講義・実践を受講

3 双方向中長期派遣プログラム

▶ 長期滞在を通じた研究と実践の両立

博士課程

4 学位取得を見据えた協働学生指導プログラム

▶ 若手教員による出張講義を含む教育研究指導

5 気候変動適応のためのウィンタースクール

▶ 気候変動に関するデータ分析体験やインフラ整備現場のインターンシップ

相互に単位付与

インターンシップを実施

本教育プログラムの目標

関係教職員による Faculty Development を実施し、講義内容、成績結果、学生アンケート結果を関連教員で共有して、次年度の講義改善に結びつけ、PDCAサイクルを推進する。



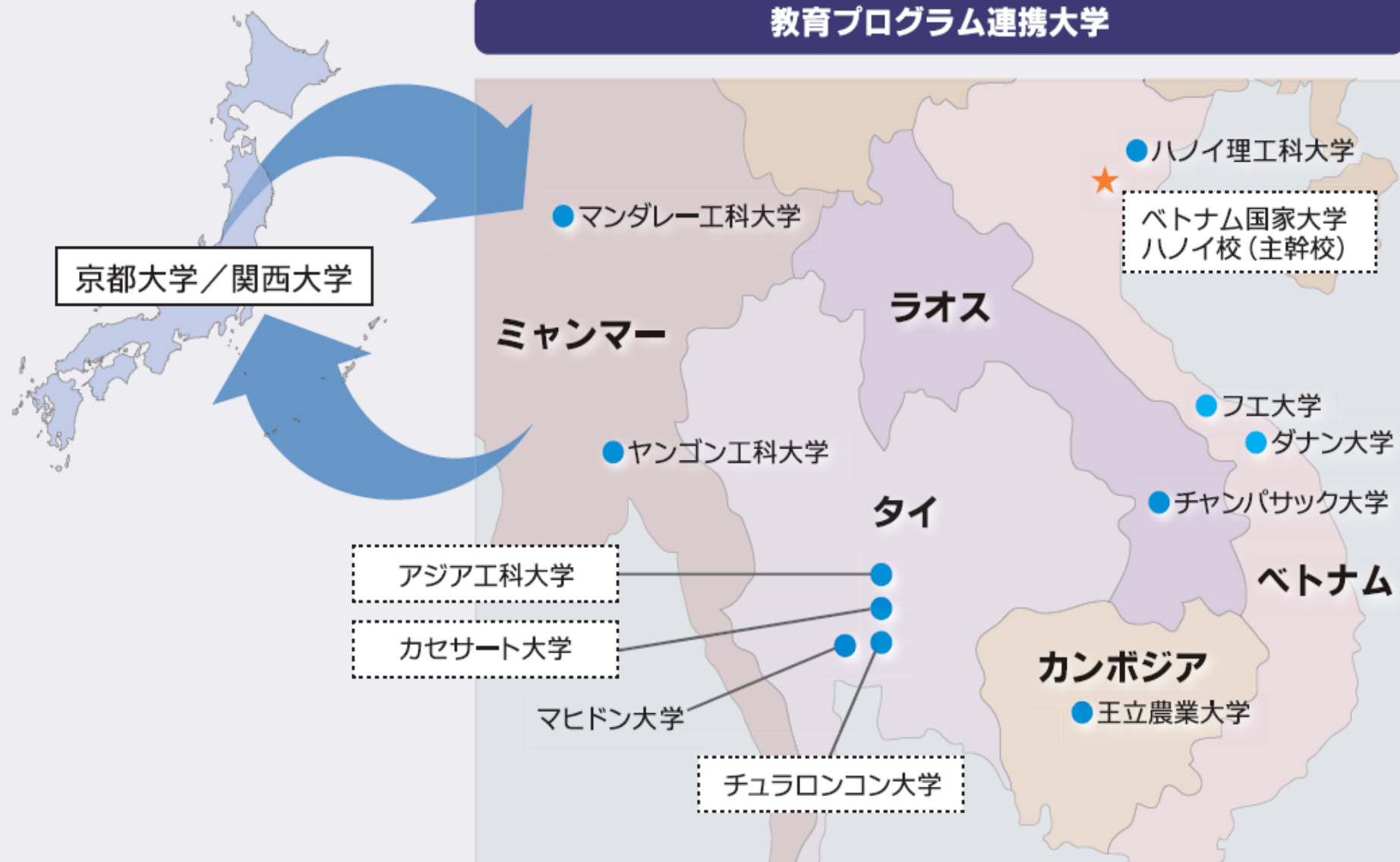
養成する人材像

海外企業体験との集中講義を通して、**グローバル世界と自身の立ち位置**を自覚させる。

ASEAN 留学生とのグループ討議や共同作業を通じて、世界各国の社会基盤や環境形成に**汗を流し行動する国際人材**であることの意識を醸成させる。

気候変動下の社会基盤形成、環境基盤形成の担い手としての**プロフェッショナル意識**を醸成させる。

教育プログラム連携大学



学生派遣・留学生受入れの実績

		H29 2017		H30 2018		R01 2019		R02 2020	
		派遣	受入れ	派遣	受入れ	派遣	受入れ	派遣	受入れ
プログラム①	計画	6	-	6	-	6	-	6	-
	実績	6	-	6	-	2	-	-	-
プログラム②	計画	12	12	12	18	12	18	12	18
	実績	16	23	23	22	21	22	26	19
プログラム③	計画	3	3	3	3	3	3	3	3
	実績	3	3	3	3	3	3	-	-
プログラム④・ ⑤	計画	-	3	-	4	-	4	-	4
	実績	-	4	-	5	-	4	-	-
実績数の合計		25	30	32	30	26	29	26	19

プログラム②

双方向短期留学プログラムについて

- 3月中旬：アセアン連携大学と2020年度の実施形式についてメールで討議。
- 4月7日：2020年度の夏季集中サマースクールをオンライン形式の実施を検討することを決定し、アセアン連携大学に連絡
- 5月1日：第1回 アセアン連携大学との運営会議
- 5月13日：第2回 アセアン連携大学との運営会議
- 6月2日：第3回 アセアン連携大学との運営会議

■ オンライン形式でのサマースクール実施を決定

■ 11大学、45名の学生の参加

プログラム②

双方向短期留学プログラムについて

（留意点）

- いかにグループ討議を活性化させるか。
- いかにコア期間をグループ討議中心の一週間に収めるか。

（特徴的な内容）

- 7月から準備期間を設定して学生交流を開始した。
- 7月半ばからオンデマンド講義を開始して、コア期間をグループ討議中心の時間割を設定した。
- コロナウィルス禍での災害対応を議論するために
“Response to COVID-19 in the event of a natural disaster”
を集中講義のテーマに取り入れた。



オンライン双方向短期留学プログラムの全体スケジュール

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
		7/1	2	3	4	5
					準備期間	
6	7	8	9	10	11	12
準備期間				発表		
13	14	15	16	17	18	19
オンデマンド講義						
20	21	22	23	24	25	26
オンデマンド講義						
27	28	29	30	31	8/1	2
オンデマンド講義						
3	4	5	6	7	8	9
コア期間						
10	11	12	13	14	15	16
発表						

ポストコロナの学生交流方針

- オンラインでの学生交流と対面での学生交流を効果的に組み合わせたプログラムを構築する。
- 対面でのインターンシップを強化する。

国際インターンシップ受入れ企業・支援企業との交流会

毎年
開催

企業の最新話題の提供 + 学生のインターン報告



企業・学生間の交流促進
充実したキャリア教育・支援体制



海外教員や学生同士の討議の場



With English Rakugo Performer



海外での建設現場における国際インターンシップ



双方向短期留学プログラム での短期インターンシップ



10:50-	社長挨拶
11:00- 11:05	主催者挨拶
11:05- 11:10	受入側挨拶
11:10- 11:40	コンサルタントの仕事の紹介
11:40- 12:00	午後のディスカッションでの 課題説明
12:00- 13:30	ランチ
13:30- 14:50	気候変動下の洪水対策につい てのグループディスカッショ ン
14:50- 15:00	休憩
15:00- 16:10	各グループ発表
16:10- 16:50	日本の洪水対策の紹介
16:50- 17:00	講評・閉会挨拶

東京外国語大学

日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア
知日人材養成プログラム

令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括



日本発信力強化に貢献する ミャンマー・ラオス・カンボジア 知日人材養成プログラム

1. 令和2年度の実施状況

1-1. 3段階の交流プログラム

1-2. 次世代型海外留学のための
スタートアップ・プログラム

2. 全体の総括とポストコロナの学生交流

2-1. 全体の総括

2-2. ポストコロナの学生交流

令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1. 令和2年度の実施状況

1-1. 3段階の交流プログラム

① 短期Joint Education Program (学部前半)

【派遣・受入】コロナ禍対応

渡航中止

⇒次世代型スタートアップ・プログラム

オンラインショートビジット・集中講義

② 交換による長期留学 (学部後半)

【派遣】コロナ禍対応

前半：一部繰上げ帰国

後半：オンライン留学2名 (Ca) ・延期3名 ・辞退4名

⇒次世代型スタートアップ・プログラム

協定校の授業をオンライン受講

協定校教員によるオンライン講義

令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1-1. 3段階の交流プログラム

② 交換による長期留学（学部後半）

【受入】コロナ禍対応

前半：一部繰上げ帰国

後半：オンライン留学3名（La2, Ca1）・延期4名・辞退3名

⇒次世代型スタートアップ・プログラム

オンライン講義

③ 大学院レベルの交換

【派遣】コロナ禍対応

渡航中止

⇒オンラインによる現地調査

【受入】大学院博士課程進学2名（La1, Ca1）

在日でオンライン・対面型併用履修

令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1. 令和2年度の実施状況

1-2. 「次世代型海外留学を目指す スタートアップ・プログラム」

- 各国の協定校と連携し、共に学ぶオンラインプログラム
- 次世代型ともいえる新しい形での留学・学びの場を提供し、
学生の相互理解と国際的視座の深化を図る

全てオンラインで実施

- ・ ショートビジット (SV)
- ・ 集中講義
- ・ 授業内講演
- ・ タンデム学習
- ・ 授業補助・学習補助
- ・ ワークショップ
- ・ オンラインツアー
- ・ キャリアパス支援
- ・ 質保証



令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1-2. 「次世代型海外留学を目指す スタートアップ・プログラム」

- ・ オンラインショートビジット (SV) ・ 集中講義
： 4～5日連続集中で単位を付与

ラオスSV (2021年1月)

- ー 協定校教員講演 (大学行事やラオス語の類義語など)
- ー タンデム学習 (祭祀儀礼・オノマトペ比較など)
- ー オンラインツアー (ビエンチャン市内・食文化)

カンボジアSV (2021年2月)

- ー 協定校教員講演 (大学の国際交流や内戦など)
- ー タンデム学習 (食文化・日用品比較など)
- ー オンラインツアー (プレア・ヴィヒア寺院)
- ー カンボジア文化ワークショップ (大型影絵芝居)



令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1-2. 「次世代型海外留学を目指す スタートアップ・プログラム」

ビルマ語集中講義 (2021年2月)

- 講演 (教育やごみ問題)
- オンラインツアー (シャン州タウンジー)
- タンデム学習 (「私の町」紹介) など



- オンラインタンデム学習 (2020年9月～)
 - : 授業の一環・アクティブラーニングとして
 - 東外大生と各協定校学生の共同学習
 - 「名前の由来」「なぜなぜ比較考」などをテーマに相互に発表・討論



令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1-2. 「次世代型海外留学を目指す スタートアップ・プログラム」

・ オンライン講演 (2020年10月～)

：授業の一環として

－ 東外大生対象

王立プノンペン大学の教員による内戦に関する講演
ラオス国立大学の教員による諺に関する講演 など

－ 協定校学生対象

ラオス国立大学の学生へ敬語コミュニケーションの講義



令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1-2. 「次世代型海外留学を目指す スタートアップ・プログラム」

- オンライン授業補助 (2020年10月～)
 - ー 受入学生が各国専攻語授業に参加し、発音・作文等の補助を行う
- オンライン学習補助 (2020年9月～)
 - ー 東外大学生が受入学生に対してオンラインで学習支援や日本の情報提供支援を行う
- オンラインワークショップ (2020年11月～)
 - ー カンボジアの大型影絵芝居一座に依頼
 - ー 影絵芝居の実演、インタビューなどを通してカンボジアおよび伝統芸能への理解を深化



令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1-2. 「次世代型海外留学を目指す スタートアップ・プログラム」

- オンラインツアー（2020年6月～）
 - ー 東外大生対象

カンボジアは食文化、アンコールワット、シエムリアップ市内など。ラオスはビエンチャン市内、衣食文化、伝統音楽・舞踊など
 - ー 受入学生対象

香川の酒造、芝居小屋見学、街歩き、事前送付教材を用いたうどん打ち体験など
- オンライン質保証
 - ー 対面による語学力判定ができないため、別途語学力試験問題を作成



令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1-2. 「次世代型海外留学を目指す スタートアップ・プログラム」

・ オンラインキャリアパス支援

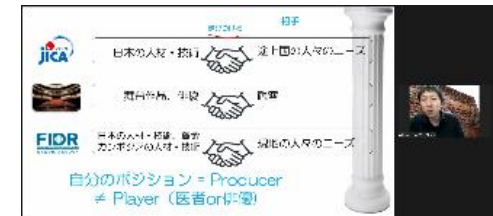
ー 東外大生対象のリレー講義 (2021年2月)

「東南アジアとのビジネスを考える」

東南アジアなどで活躍する卒業生による講義

オンライン効果で講師・学生共に倍増

(メーカー, 流通, シンクタンク, 公共機関, NGO等)



ー 受入学生対象のキャリアセミナー (2020年6月～)

1. 日本就職ウェビナー (Connect Job) : 日本での就活、適正検査や面接、職場環境、職場で求められる日本語力を学習

2. 映像翻訳ワークショップ (日本映像翻訳アカデミー) : 映像翻訳業務の理解と翻訳課題を通して映像翻訳を学習



令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

1-2. 「次世代型海外留学を目指す スタートアップ・プログラム」

①成果

- ー渡航ができない中、学生に現地を体験する機会を提供
- ー多くの学生にさまざまな形の学習・交流の場を実現
- ービデオ教材の作成により、今後もオンラインやオンデマンドで活用できる体制を構築

②課題

- ー協定校学生のインターネット環境の確保・経済的支援
- ー大学院レベルの派遣・受入の拡充

令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

2. 全体の総括とポストコロナの学生交流

2-1. 全体の総括

(1) 3段階の交流「派遣」

	ミャンマー			ラオス			カンボジア			
派遣	SV	交換	院	SV	交換	院	SV	交換	院	合計
H28	10	2	1	9	2	0	3	2	2	31名
H29	9	3	3	9	3	0	4	2	1	34名
H30	10	3	3	11	2	2	2	3	0	36名
R1	9	4	1	中止	1	2	6	0	2	25名
R2	8	(2)	0	20	(1)	0	16	2	0	(46名)

⇒H30まで計画数より多くを派遣

R2 次世代型海外留学SPで多くの学生に交流の機会提供
段階的且つ継続的な交流によるグローバル人材の養成

令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

2-1. 全体の総括

(1) 3段階の交流「受入」

	ミャンマー			ラオス			カンボジア			
受入	SS	交換	院	SS	交換	院	SS	交換	院	合計
H28	3	2	0	4	2	0	6	2	1	20名
H29	5	3	0	5	3	0	6	2	0	24名
H30	5	3	0	5	4	1	6	3	1	28名
R1	5	4	0	5	5	0	6	1	0	26名
R2	中止	0(4)	0	中止	2	1	中止	1	1	(5名)

⇒R1まで計画数より多くを受入れ

R2 次世代型海外留学SPで多くの学生に交流の機会提供

短期受入により知日人材の裾野が広がる

日本語教員や日系企業に就職、大学院進学者など知日人材の実現

令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

2-1. 全体の総括

(2) 知日人材の養成・日本発信力強化への取組

・日本人学生対象

- ー 国際的職業人（卒業生）による講演を受講
- ー 現地での日本留学フェア・ジャパンフェア補助
- ー 海外インターンシップ・国際交流基金による日本語教育指導助手のインターンシップ参加



・協定校学生対象

- ー インターンシップ・スタディツアー参加
- ー 冬プログラム受講（日本語講座、日本文化学習体験、諸施設の社会見学）
- ー 近隣地域・小学校での行事・祭祀儀礼参加

⇒国を跨いだ実施により、三国や諸外国とのつながりを醸成

課題：留学後・卒業後のフォローアップ体制



令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

2-1. 全体の総括

(3) 質保証と教育国際化

- ・ 単位互換
 - － 派遣・受入れ双方で実現
- ・ 学力の保証
 - 修了証・成績証明書の発行
 - － CEFR-Jによる語学力診断を実施
 - － 英語力の最低保証（TOEIC800点）を実現するための集中講義英語科目、900点突破を目指す講習を開講。TOEICの受験推進
 - － 日本語能力試験
- ・ 教育国際化
 - － 単位互換基準の整備やシラバスの統一的記述と公開、質保証体制に関する情報共有の促進
 - － ASEAN+3の浸透や国際的基準に準拠した単位互換制度の確立に向けて協議

令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

2-1. 全体の総括

(4) その他

- 外部評価

- 毎年、外部評価委員会を実施
(令和2年度はZoomミーティング)

- 情報発信

- 本事業のWebサイトで実施内容を発信

<https://tenkaicalm.wordpress.com/>

- ビデオメッセージ「参加者の声」(作成中)
担当教員や各協定校の教員、参加学生等が、
本事業を振り返り、ポスト・コロナを見据
えた今後の交流の在り方を語る



令和2年度の事業実施状況とこれまでの総括

2-2. ポストコロナの学生交流

～本事業から次のステップへ～

- 各取組みを継続、発展させながら、渡航が可能となるまで本事業を通して活発となった交流を途切れさせないように努める
- 渡航の可否を問わず、学生のグローバルな視座・相互理解・知的好奇心を深化する機会を提供する
- 渡航可能となった後も、オンラインやオンデマンドのコンテンツを活用した広範な学生交流を促進する

東京藝術大学

日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

東京藝術大学



TOKYO GEIDAI

「日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～」の取組について

《報告概要》

1. これまでの事業について（2016年度-2020年度）
2. 令和2年度の事業実施状況について
3. これまでの総括・課題・今後の展望について

1. これまでの事業について（2016年度-2020年度）

- ・ ASEAN地域 5ヶ国にある 8つの芸術系大学（カンボジア王立芸術大学、ラオス国立美術学校、ミャンマー国立文化芸術大学、バガン漆芸技術大学、ベトナム美術大学、ホーチミン市美術大学、ベトナム国家音楽院、シラパコーン大学）との共同し、**文化芸術を通じた社会実践に取り組む。**
- ・ ユニットプログラム（派遣・招聘）、個別研修プログラムの2種類のフレームを設定。ユニットプログラムでは、**東京藝大の全領域（音楽、美術、映像、国際芸術創造）の教員と学生およそ10ユニットが連携大学の教員と学生とともに、それぞれの専門性を活かし、多様な文化事業を展開した。**

■事業事例 ①ユニットプログラム（派遣・招聘）

・・・本学と連携大学のそれぞれがユニットを形成し派遣・招聘を組み合わせ、さまざまな文化芸術分野の社会実践に取り組む。



■事業事例②個別研修プログラム (派遣・招聘)

・・・主に若手の研究者や教員、修士課程前期以上を対象に、中長期で受け入れ・派遣を行い、研修プログラムを実施

▶シラパコーン大学の若手教員が個別研修プログラム参加時に制作した作品の視聴会を行う様子。



■事業事例③合同招聘研修プログラム

・・・複数大学の教員と学生を同時に招聘し、本学美術学部での滞在研修プログラムを通じて、「日本の文化芸術」を学ぶ。

▶合同招聘研修プログラム時に開催したフォーラム「アジアの芸術大学のこれから」の様子。



■ 2016-2020年度の派遣・招聘者実績数

派遣学生数

	2016	2017	2018	2019
カンボジア	0	11	4	5
ラオス	3	3	10	0
ミャンマー	9	18	6	9
ベトナム	0	10	17	5
タイ	10	14	13	8

招聘学生数

	2016	2017	2018	2019
カンボジア	0	3	5	2
ラオス	0	4	2	1
ミャンマー	2	2	0	1
ベトナム	4	9	3	4
タイ	14	3	9	3

2. 令和2年度の事業実施状況

- 新型コロナウイルス感染症拡大のため、当初予定していた渡航を伴う事業計画は中止とし、以下、2つの段階的なオンライン事業を展開。

① オンラインプラットフォーム「TMOP (ティモップ)」の開設

2020年5月にはオンラインプラットフォーム「TMOP」(Tokyo University of the Arts ⇄ Mekong Online Platform 2020) を立ち上げ、本学の学生によるASEAN地域の文化芸術を対象とした取り組みのアーカイブや、本学学生がアセアン地域のアーティスト、連携大学教員にインタビューを行うウェブコンテンツ、オンライン授業用の教材を制作し、公開。



② オンライン国際交流事業「Tokyo Geidai⇄Asia 2021」の開催

2021年1月を「東京藝大インタラクティブアジア月間」と題しアジア地域との国際交流に焦点をあてたオンラインでの国際シンポジウム・国際フォーラム、芸術ジャンルごとのテーマによるディスカッションイベントを開催。



■ 事業事例① オンラインプラットフォーム「TMOP」

URL : <https://tmop.geidai.ac.jp/>

CONVERSATION

メコン流域地域の音楽家、アーティスト、映像作家へのインタビューやコラムなど、さまざまな人々とのCONVERSATION〔会話〕を掲載します。

TMOP
TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS
MEKONG ONLINE PLATFORM

Search



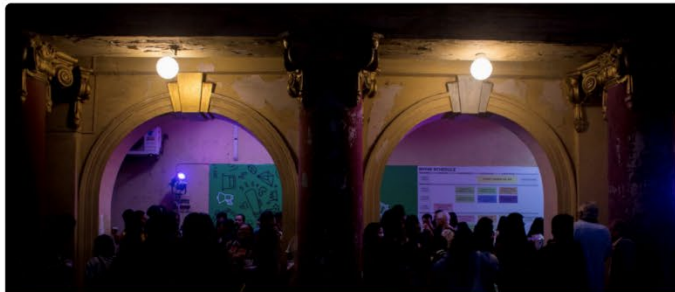
CONVERSATION #5 (井口寛、田中教順)

2020.09.15



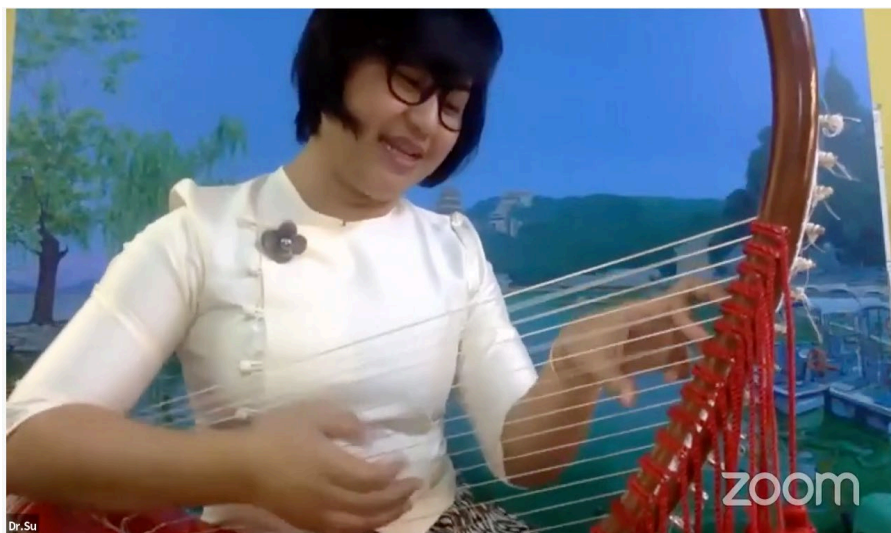
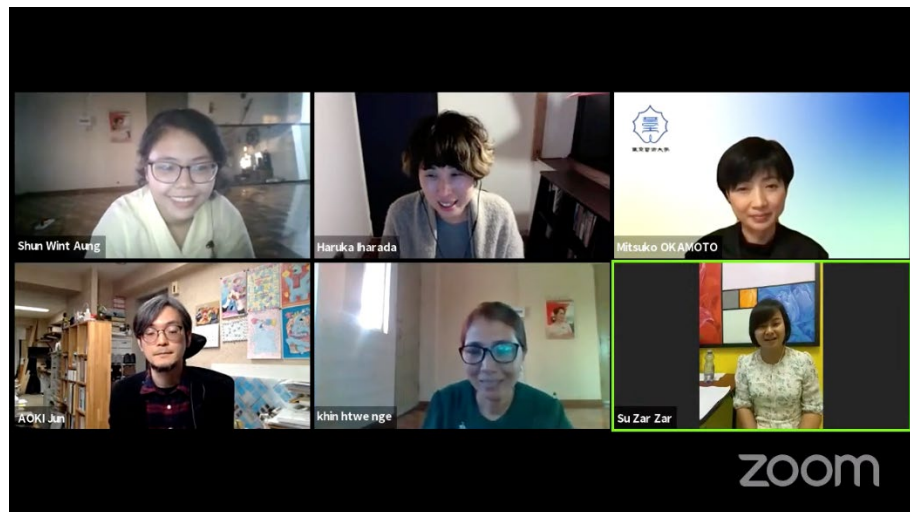
CONVERSATION #5 (Phan Mai Anh & Nguyen Thien Minh)

2020.08.26



■事業事例② オンライン国際交流事業「Tokyo Geidai⇄Asia 2021」

2021年1月を「インタラクティブアジア月間」として様々なトークセッションや国際フォーラム、ワークショップを行った



3. これまでの総括・課題・今後の展望

《総括》

・音楽・美術・映像など幅広い芸術分野を対象としたプログラムを実施することで、大学間交流にとどまらず、地域社会や各国の教育制度などに向けて、社会発信をともなう実践事業を多数展開することができた。

・継続的な学生間交流または共同プログラムの実施を通じ、連携大学の新たな専攻の設立、芸術教育システム（シラバス）構築などに貢献することができ、質保証を担保する関係性の構築を実現することができた。

《課題》

・社会発信を伴う事業の実施や大学制度における質保証を担保する関係性を構築することができ、成果が得られたものの、今後この事業を継続する学内の体制整備、組織構築が課題である。

《今後の展望》

・これまでの事業の継続と同時に、「アジア芸術総合センター」等の学内の体制化・組織化に取り組み、さらにはアジアの文化芸術教育のネットワーク構築を進めていく。

新潟大学

メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育
による理工系人材育成

メコン諸国と連携した 地域協働・ドミトリー型融合教育による 理工系人材育成

令和2年度の実施状況とこれまでの総括について



新潟大学



王立プノンペン大学



ラオス国立大学



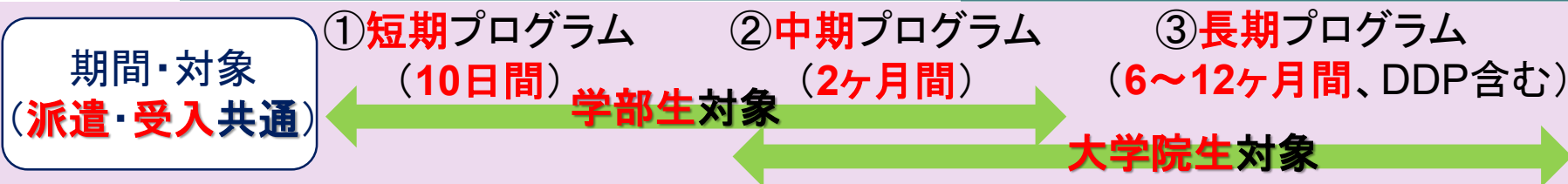
チュラロンコン大学



ハノイ工科大学

新潟大学

ループ: 75+14, 企業: 78+8



最終成果発表会
(複数教員で評価)

企業による「学生評価書:5段階」

聴講科目等の「学内活動内容の内訳記録書」(単位取得の際は成績書等添付)

必修科目

国際グループワーク(GW)インターンシップ

短期
修了要件
2単位

企業活動と国際社会との接点等の理解
(事前事後学習, 学外4日間程度, 2単位)
⇒中長期への意欲向上

中期
修了要件
4単位

企業活動の国際的役割等の課題の発見・分析・解決(事前事後学習, 学外1ヶ月間程度, 3単位)

長期
修了要件
8単位

企業活動の国際展開等のための課題の発見・分析・解決(事前事後学習, 学外2ヶ月間程度, 4単位)

選択科目

研究指導教員による
「学生評価書:5段階」

地域文化 理解科目

英語による
科目(新潟大の例: 国際工学事情など)

GW・研究の テーマに関連 する専門科目

英語による科目(新潟大の例: 国際工学概論など)

(主に大学院生) 研究関連科目

研究活動やセミナーなどのLab-Work科目(長期の博士後期はDDP選択可)

ホスト大学生が
グループ参加して共修

「参加証」を発行(新潟大生はインターンシップ等の単位)

各大学に報告: 修了認定証, Supplement Document of Transcript for G-DORM Exchange Student

ASEAN+3 留学生の学修履歴のための成績証明書および補足資料に関するガイドラインに準じて作成・発行

新潟地域関連企業等と協働



(1)事前のGW学習



(2)現場研修及び調査とGW討論



(3)モニタリング(週報・訪問・スカイプ等)



(4)企業での成果発表会



(5)新潟大で最終成果報告会



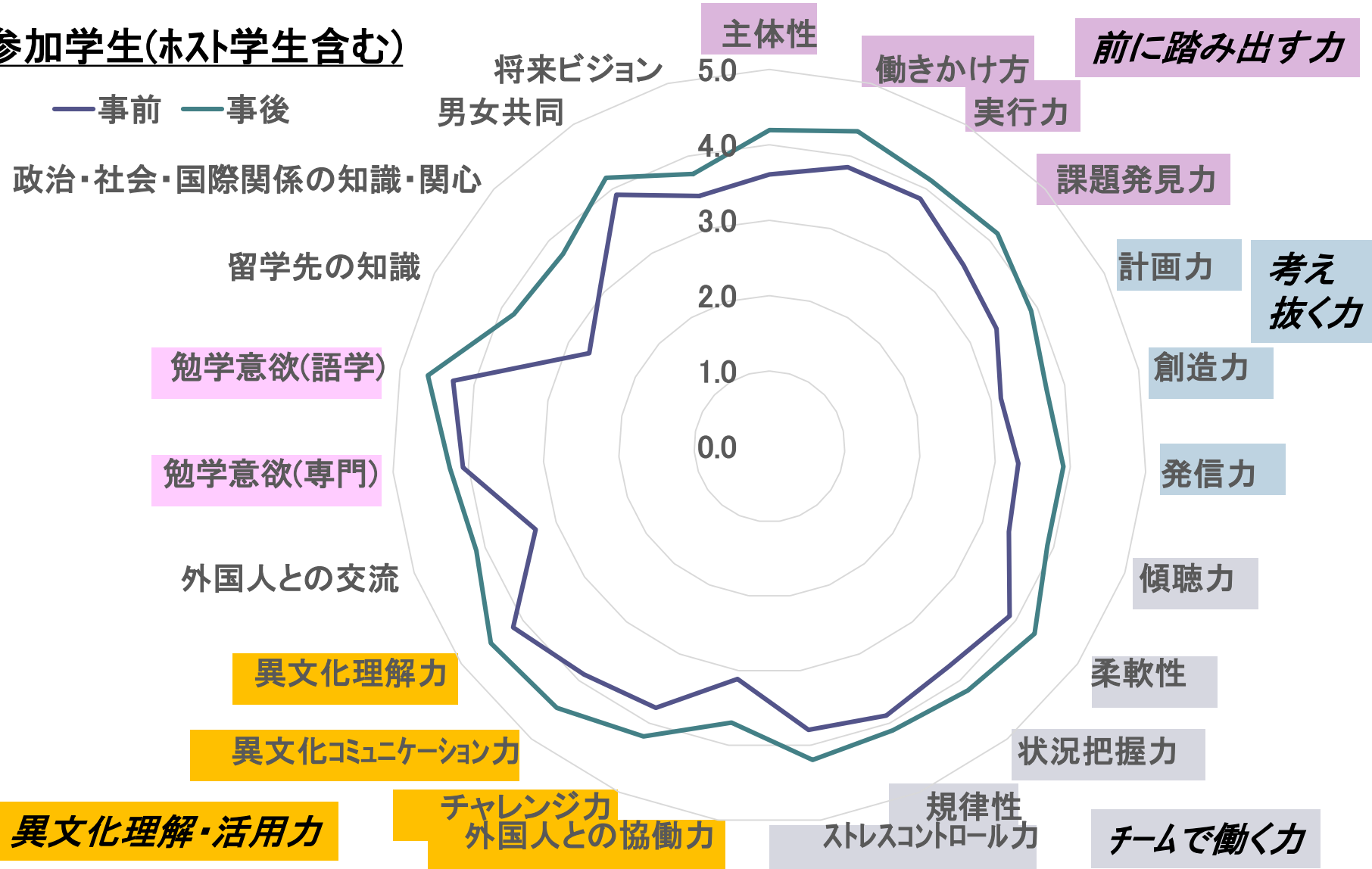
(6)振返り学習

H28-R1年度プログラム参加前後の全学生(ホスト学生含む)に対するJASSO様式設問回答の解析

評価観点		前	後	向上	設問内容(1:そう思わない,2:どちらとも言えない,3:少しそう思う,4:かなりそう思う,5:強くそう思う)		
社会人基礎力	前に踏み出す力	主体性	3.6	4.2	4.2	0.6	1) 自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができる
		働きかけ方	3.8	4.3		0.5	2) 仲間に働きかけ、問題点を一緒に改善するために行動することができる
		実行力	3.8	4.1		0.3	3) 自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる
	考え抜く力	課題発見力	3.5	4.1	3.9	0.6	4) 自分なりに現状分析して課題点を具体的に提示することができる
		計画力	3.4	3.9		0.5	5) 課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができる
		創造力	3.1	3.8		0.6	6) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えで、意見やアイデアを工夫して提案できる
	チームで働く力	発信力	3.3	3.9	4.1	0.6	7) 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらえるよう的確に伝えることができる
		傾聴力	3.4	3.9		0.5	8) 相手の話しやすい環境を作り、適切な意見を引き出すことができる
		柔軟性	3.9	4.3		0.4	9) 自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる
		状況把握力	3.8	4.2		0.4	10) チームで仕事をするとき、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる
		規律性	3.9	4.1		0.2	11) その場のルールや手続きに従って、自ら行動や発言を適切にすることができる
		ストレスコントロール力	3.8	4.2	0.4	12) ストレス状況に置かれても、自分の成長機会だとポジティブに捉え、前向きに対処することができる	
異文化理解・活用力	外国人との協働力	3.1	3.7	4.2	0.6	13) 自分の文化背景の異なる場所また仲間とでも、リーダーシップを取ることができる	
	チャレンジ力	3.8	4.2		0.4	14) リスクがあっても、挑戦してみることが大切だと考え、実行することができる	
	異文化コミュニケーション力	3.9	4.5		0.6	15) 不十分な外国語力であっても、何とか意味を伝えようと積極的に発信することができる	
	異文化理解力	4.2	4.5		0.4	16) 自分とは異なる信仰や文化的背景を持っている人を理解し、受入れることができる	
外国人との交流		3.3	4.2	0.8	17) 国内・海外を含めて、外国人との交流がある		
勉学意欲	勉学意欲(専門)	4.1	4.2	4.4	0.2	18) 専門分野の勉強へのモチベーションがある	
	勉学意欲(語学)	4.3	4.6		0.3	19) 語学の勉強へのモチベーションがある	
留学先の知識		2.7	3.8	1.1	20) 留学先の社会・習慣・文化に関する知識がある		
政治・社会・国際関係の知識・関心		3.1	3.7	0.7	21) 政治・社会問題・国際関係について、知識・関心がある		
男女共同		3.9	4.2	0.3	22) 社会での男女共同参画(男女平等)の重要性を認識している		
将来ビジョン		3.4	3.8	0.3	23) 将来の方向性・進路について、明確な考えを持っている		
平均値		3.6	4.1	0.5			

H28-R1年度プログラム参加前後の全学生(ホスト学生含む)に対するJASSO様式設問回答の解析

全参加学生(ホスト学生含む)



全て向上(苦手の克服傾向)

・特に「勉学意欲」、「前に踏み出す力」、「異文化理解・活用力」で事後高評価
 ・「留学先の知識」、「外国人との交流」、「政治・社会・国際関係の知識・関心」で高向上度

参加学生のステップアップ参加や就職状況：グローバル志向が鮮明に！

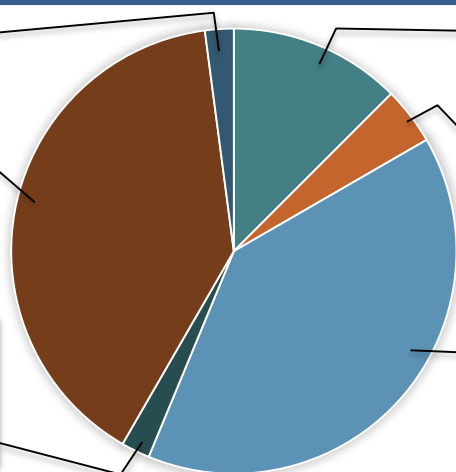
R2年度までの複数回参加学生:44人(2プログラム:39人,3プログラム:5人)

◎ホスト参加から渡航型留学へ:21人 ◎より長い期間へ:20人 ◎トビタテ:2人

H28-R1年度参加新潟大生の卒業・修了者(48人)の進路状況
(※学部生23人,院生25人)

就職・進学活動の際に、
留学交流経験の学びが
自己アピールで有用

その他
(2%)
大学院進学(在籍含む)(40%)
新潟地域以外の企業等で海外拠点なし(2%)



新潟地域の企業等※
で海外拠点あり(12%)

新潟地域の企業等※
で海外拠点なし(4%)

新潟地域以外の企業等
で海外拠点あり(40%)

※新潟県内に本社または
国内拠点を有する企業

キャリアビジョン形成に関する参加学生の声の事例

【新潟大生コメント】

- 日本のものづくりは海外との関わりなくして成り立たないことが分かった。
- 技術的なことだけでなく、世界情勢などに視野を広げて学ぶ必要があると感じた。
- 海外で働きたいというビジョンが明確になった。確信に変わった。
- 臆せず発信していく気持ちやリーダーシップなどを今後の就職活動に生かしたい。

【メコン大生コメント】

- 生産管理だけでなく品質管理の重要性が分かった。就職後、自国でも生かしたい。
- 新潟での経験を活かし、国際技術者のまとめ役になり、自国産業発展に貢献したい。

第3回マイナビ「学生が選ぶインターンシップアワード」優秀賞受賞：全国的に注目！

学生の社会的・職業的自立に貢献したインターンシッププログラムを表彰する、**日本最大級のアワード**。「公益社団法人つばめい」と連携して実施する短期受入の**国際グループワーク・インターンシップ**が評価され、「**優秀賞**」を受賞！

※第3回目は全国より361法人、**482プログラム**の応募から、インターンシップアワード大賞1法人、文部科学大臣賞1法人、優秀賞6法人、入賞2法人が表彰されました。

マイナビのHPで紹介

internship-award.jp/report/interview/niigata-u/



新潟大学

燕市に多国籍な学生を集め、地域協働を図る。課題解決型プログラムをさらに進化させたい。

新潟大学

大学情報はこちら

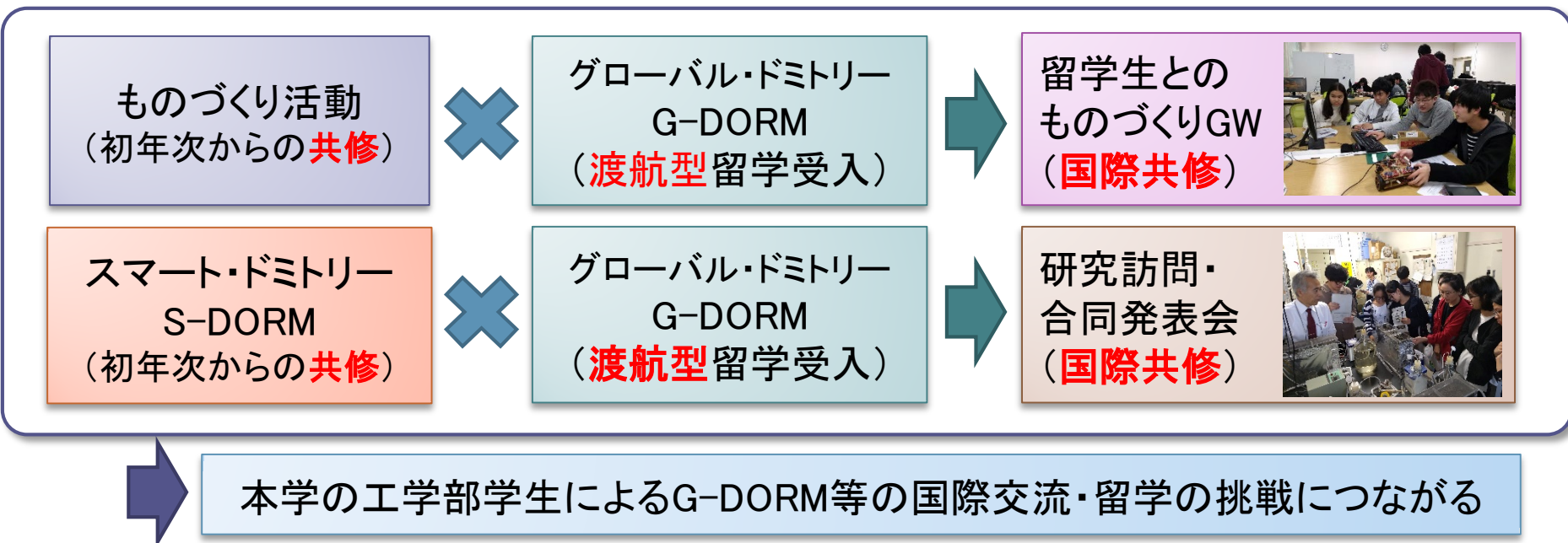


3年目を迎えた『学生が選ぶインターンシップアワード』。全361法人計482プログラムの中から優秀賞（6法人のうちの1法人）に選ばれたのが、新潟大学工学部の「G-DORM国際展開インターンシップin燕市」でした。新潟大学 牛木辰男学



本学の国際的な工学教育の実践・研究の発展：国際共修の進展，学術研究の発表

本学の工学教育プロジェクトとの連携



研究発表成果

- ◎国際的な工学教育の実践研究としての発表(受入留学生の発表含む):
学術論文(SCI)1件, 国際会議18件(うち学生発表12件), 国内学会発表3件
- ◎本事業の連携により実現した連携大学の学生・教員等の研究発表:
本学で開催された国際会議6件, 国内学会発表1件

令和2年度：渡航型×国際共修×産学協働プログラム→オンライン(COIL)展開へ

令和元年度までの実績・成果：

渡航型留学交流と国際共修による、産学協働での
PBL型国際グループワーク・インターンシップと成績評価の仕組み

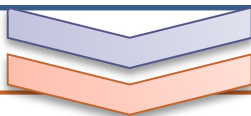


【学生教育の効果】

- グローバルコンピテンス向上
- 上位プログラムや長期留学へのステップアップ
- グローバルキャリアへの意識醸成・グローバル関連企業への就職

【大学の教育研究・国際化の進展】

- 国内有数のインターンシップアワード受賞
- 学生・教員の学術論文発表・国際研究発表
- メコン地域4大学との国際連携の強化



令和2年度の展開：

コロナ禍の海外渡航制限を踏まえ、国際オンライン協働学習(COIL)の開発へ



G-DORM国際オンライン協働学習(COIL, 9月)プログラム概要

実施日程: 令和2年9月14日～16日(3日間)

参加学生: 新潟大学8名, 王立ブノンペン大学8名, 計16名

テーマ: ポストコロナのSDGs達成に向けた科学技術の課題

実施手法: 課題解決型の国際オンライン協働学習
(Collaborative Online International Learning: COIL)

内容構成例

アイスブレイク

お互いの国や文化を知るクイズを通して、異文化理解を促すとともに、参加学生同士で打ち解け合う。

各国の違いの比較討論

各グループで「課題及びその背景」を議論し、国による捉え方の違いを把握。

協働活動・課題解決提案

関連事例等(例えば公的機関等の有識者による関連情報の紹介)からヒントを得て、「課題の解決提案について協働作業」に取り組み、発表内容をまとめる。

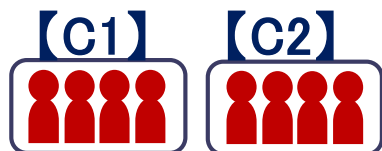
発表・振り返り

オンラインで成果発表会を実施する。また、自身の学びや成長を確認するため、振り返り学習を行う。

G-DORM国際オンライン協働学習(COIL, 9月)プログラム概要と学生の自己評価

[王立プノンペン大学]
学生8名
(2グループ)

[新潟大学]
学生8名
(2グループ)



[オンサイト]

各大学でのグループワークで
与えられた課題について議論

[オンライン (ZOOM)]

オンラインでグループワークの成果
共有・異文化の背景の下で討論

オンサイトとオンラインの
活動の繰り返しにより、
異文化理解を深め、
グループ提案をより精査



学習による最も重大な変化(MSC)の振り返り結果:

王立プノンペン大:【C1】SDGsに関する知識の向上, 【C2】チームワーク力向上

新潟大学:【N1】英語向上の重要性の理解, 【N2】SDGsに対する関心向上

G-DORMオンラインプログラムin冬: COILのインターンシップへの展開事例

- COILによる課題解決型の国際グループワークインターンシップ(2単位, 学生21名)
2020年12月2日～2021年1月26日+事前/事後学習
- テーマ: 国による食文化の違いと食に関わる道具の世界展開について

メコン地域の4大学



[カンボジア]
学生2人

Royal University of Phnom Penh



[ラオス]
学生2人

National University of Laos



[タイ]
学生3人

Chulalongkorn University



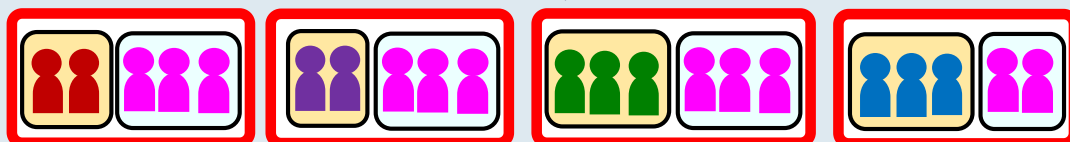
[ベトナム]
学生3人

Hanoi University of Sci. and Tech.



学生11人

新潟大学



燕地域企業(4社)と課題解決型インターンシップ

金属加工製品としての調理道具について、

- ①特徴的な付加価値等を整理し、
- ②食文化事情や類似製品の有無を調べ、
- ③メコン地域で販売するための方策を、企業スタッフになったつもりで提案せよ。

(公社)つばめいと(商工会議所連携)と連携して就労及び産業振興



燕市との包括連携協定

金属加工技術の工業都市(産業振興や人口減少等の課題で連携)



G-DORMオンラインプログラムin冬: COILのインターンシップへの展開事例



ベトナムとの同期型のグループワーク



カンボジアとの同期型のグループワーク



多国間の同期型の合同グループワーク



インターンシップ企業側での学生との質疑応答



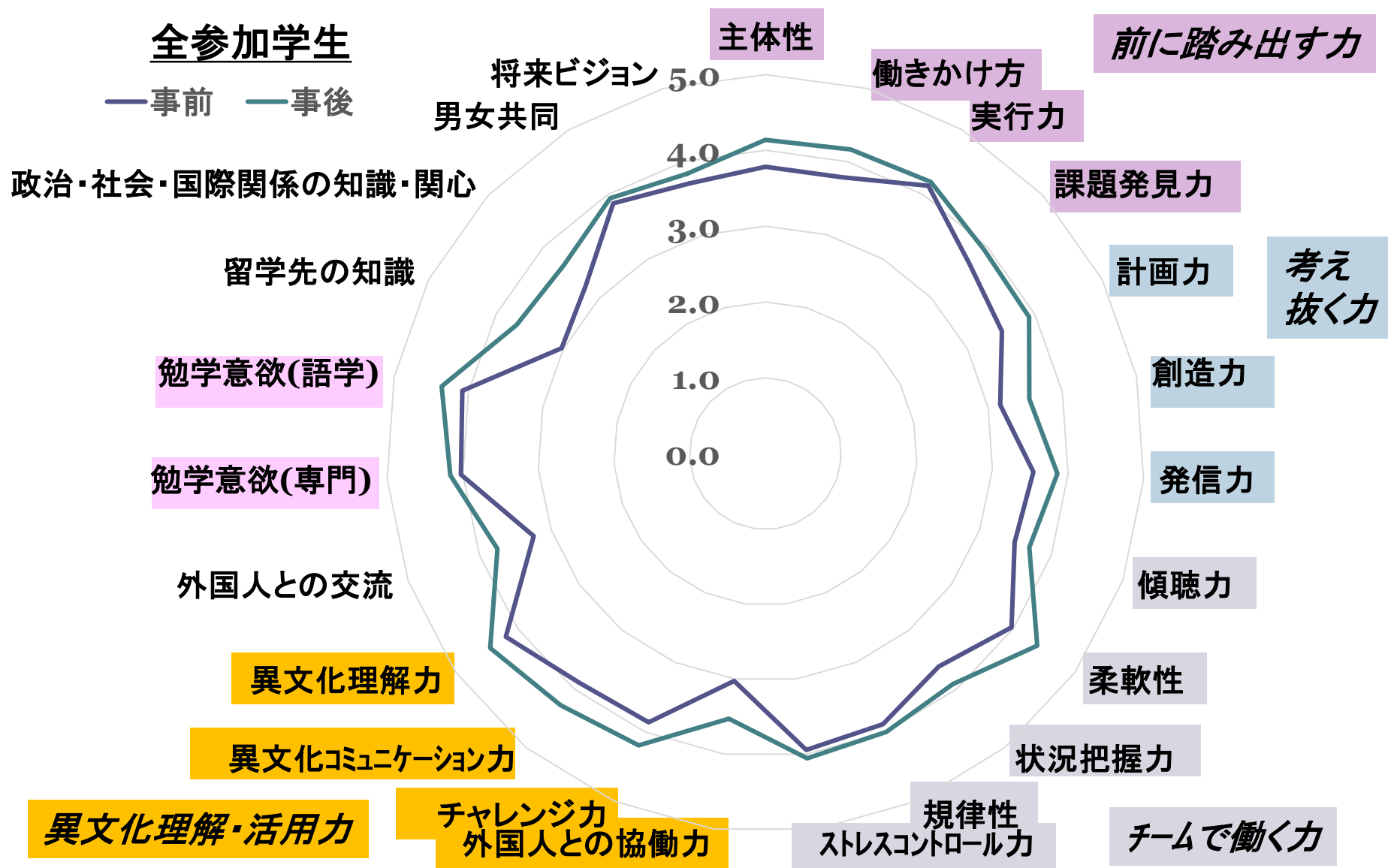
学生の振り返りや報告での自己の学びに関するコメント例

- 英語での積極的な意見表現とコミュニケーション力
- 異文化背景の人と忍耐強く協調するチームワーク力
- 日本企業のビジネス知識と企業スタッフの責任感
- 国の発展のための将来のキャリア能力の向上
- 渡航型の留学で現地の生活を体験してみたい。



最終成果発表会

R2年度オンラインプログラムの全学生の参加前後のJASSO様式設問回答の解析



全て向上(苦手の克服傾向)

・特に「勉学意欲」、「前に踏み出す力」、「異文化理解・活用力」で事後高評価
・「留学先の知識」、「外国人との協働能力」、「外国人との交流」で高向上度

名古屋大学

ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎
人材」育成プログラム

名古屋大学

ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ 基礎人材」育成プログラム

名古屋大学経済学研究科

教授

土井 康裕



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

2020年度交流プログラムにおける成果（コロナ禍の現状）

2020年度	人数
受入(オンライン)	2
受入（渡航）	2
派遣(オンライン)	4
オンライン交流	6 + 6

- 新型コロナの影響で、ほとんどのプログラムで例年通りの実施ができなかった
- 代替として、オンラインでの学生交流や合同プロジェクトを企画・実行
- 法学部、多元数理学研究科、農学研究科においては、オンラインにて講義や演習、意見交換を実施
- **法学部**：ヤンゴン大学からの学生2名を12月以降、実際に受入渡航許可後、日本にて対面・オンライン併用にて授業受講（10～12月は現地よりオンラインにて名古屋大学の授業を受講）
- コロナ禍にあるオンラインでの実施であったが、何かしらの形で継続的に実施することで、交流継続への希望が見えた

2020年度交流プログラムにおける成果（コロナ禍の現状）

- 本プログラム関連科目International Communication(経済)における取組：
 - 15回の講義のほとんどがZoomを利用した開講となった
 - 従来の現地調査・工場見学などの実施は不可能であった
 - ディスカッションはブレイクアウトルームを活用した
 - 代替として、オンラインにて工場見学を行った。従来のように、工場の雰囲気を感じたり、製品を手にとったりということはできなかった
 - 反面、協力企業様の海外オフィスとも回線をつなぎ、海外オフィスの生の様子を見せてもらうことができた。現地にて就業する日本人スタッフに直接質問をすることもでき、学びが大きかった
 - 授業全体：
 - 特に日本人学生からは「理解が難しい事があった場合、周囲にすぐ助けを求められる人がいないことで、授業が例年より困難に感じた」という意見もあった
 - 「先生が通りかかったら聞こう、というようなちょっとした質問ができなくて困った」という声も聞かれた
 - グループワーク中でも個人での作業が増え、グループとしての統一感を保つのが困難であった

ポストコロナの学生交流の方針

- ☺ オンラインでも一定の指導、交流が可能であるとわかり、今後渡航できない状況が多少続いても、交流を継続できることが期待できる
- ☺ 渡航等にかかる費用を必要とせず、様々な学生がオンラインを通して気軽に国際交流に参加できる
- ☹ 従来、名古屋大学が中心に据えてきた「現地調査」が困難になり、相手国の現状や文化背景、価値観などを直接体験できない
- ☹ 現地の実情への理解が深まりにくく、実証研究が困難になった
- ☹ 講義など一方通行になりがちで、学生同士の自由な交流がしにくい

⇒研究様式をどう変化させるか、現地理解をどのように深めるか、学生交流の方針を見直す必要がある

⇒さらに効果的な交流のため、学内の機材の最新化が求められる

5年間の交流プログラムにおける成果

- 相手国：6か国（カンボジア、シンガポール、タイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス）

- 相手大学：8大学

- 王立プノンペン大学(カンボジア)
- 王立農業大学（カンボジア）
- 王立法経大学（カンボジア）
- シンガポール国立大学（シンガポール）
- カセサート大学（タイ）
- 外国貿易大学（ベトナム）
- ヤンゴン大学（ミャンマー）
- ラオス国立大学（ラオス）

2016～ 2020	受入総数	派遣総数
2016	61	79
2017	74	104
2018	61	88
2019	69	73
2020 (オンライン実施含)	10	10

◆ 外国人学生の受入：

- 受入プログラムは、協定校で高く評価されている
- 企業・公的機関の協力のもとでの現地調査、企業/工場見学が興味を引く

◆ 日本人学生の派遣：

- 学内での数度の説明会開催を通し、広報を充実
- 学生間の口コミも利用
- 事前研修の一環として、危機管理オリエンテーションを実施



5年間の交流プログラムにおける成果

- 名古屋大学では、協定校・企業・機関の協力を得たプログラムを実施
 - ◆ 体験型の教育を提供
 - ◆ 学識を実践できる能力を育成
 - ◆ グローバル人材としてのコミュニケーション力の訓練の実施
- ◆ 受入：
 - 進出希望先（国、地域）の文化背景や価値観の理解
 - 留学生ならではの着眼点や発想への期待
- ◆ 派遣：
 - 現地の特性を理解した実践的な調査
 - アンケート・インタビューを通じた文化・価値観・現状への深い理解
- ◆ 学生自身の学びのみでなく、企業や公的機関へ調査結果を還元することを視野に入れた学び



この5年間で踏まえた今後の課題

- 「大学の世界展開力強化事業」の予算がない中で、質を保ったプログラムを、どのように継続的に運営していくか
- JASSOの支援なしで、短期留学を希望する学生への経済的支援の方法
- 支援がない中での、留学希望学生数の確保
- コロナ禍で渡航ができない中で、どのように学生の興味を引き出すか



○広島大学／広島経済大学

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する
研究力と社会起業力の融合人材育成

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する 研究力と社会企業力の融合人財育成プログラム

海外提携大学

ミャンマー連邦共和国 

ヤンゴン大学
ヤンゴン歯科医学大学
ミエック大学

ベトナム社会主義共和国 

国家大学ハノイ校自然科学大学
国家大学ハノイ校人文社会科学大学
国家大学ホーチミン市校自然科学大学
国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学
ホーチミン医科薬科大学
国家大学ホーチミン市校工科大学
ベトナム交通運輸大学
貿易大学

ラオス人民民主共和国 

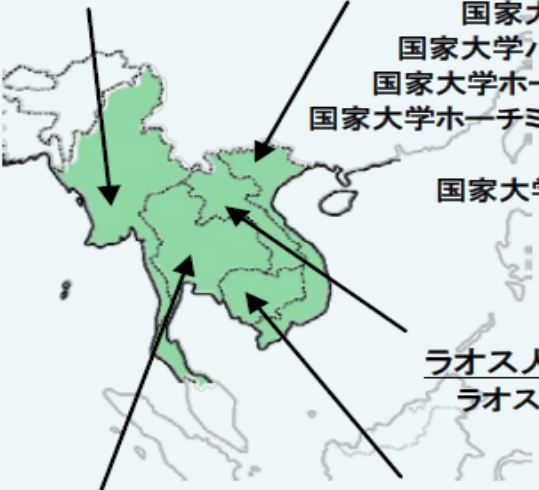
ラオス国立大学

カンボジア王国 

王立プノンペン大学
カンボジア国立健康科学大学

タイ王国 

カセサート大学



専門教育・研究

国連の掲げるSDGsを以下の5つの領域に分け、
関連専門教育を提供しています。



医療



食



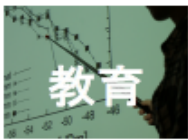
環境



資源

生命インフラ
食品生産技術、生物資源学、口腔保健学

持続的発展インフラ
環境科学、土木工学、生態学



教育



雇用



言語



文化

人材教育インフラ
教育政策、カリキュラム開発、STEM教育

伝統・尊厳インフラ
言語学、日本文化研究、地域研究、文化人類学、人と環境学



**国際
経済**



**国際
経営**

経済発展インフラ
理論経済学、応用経済学、国際金融論、国際経営論

令和2年度の実施状況

- 受入・派遣予定計画は概ね中止
 - カンボジアから5名受入れ
- 感染症対策の上、対面で実施した教育活動
 - SDGsアイデアマイニング学生セミナー
- オンライン上で実施した教育活動
 - オンライン平和教育（8/6）
 - オンライン国際協働学習（COIL）

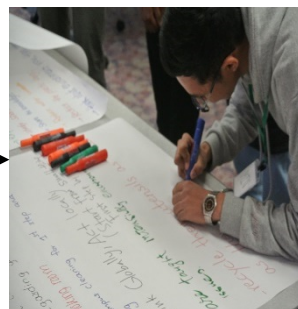
SDGs アイデアマイニング*学生セミナー



Ice Breaker



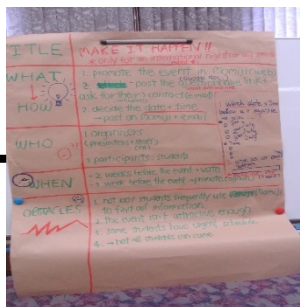
Mind Opener



Brainstorming



Presentation



Action Plan



Categorization
& Selection



SDG 13（気候変動）をテーマに議論
[2018年11月]

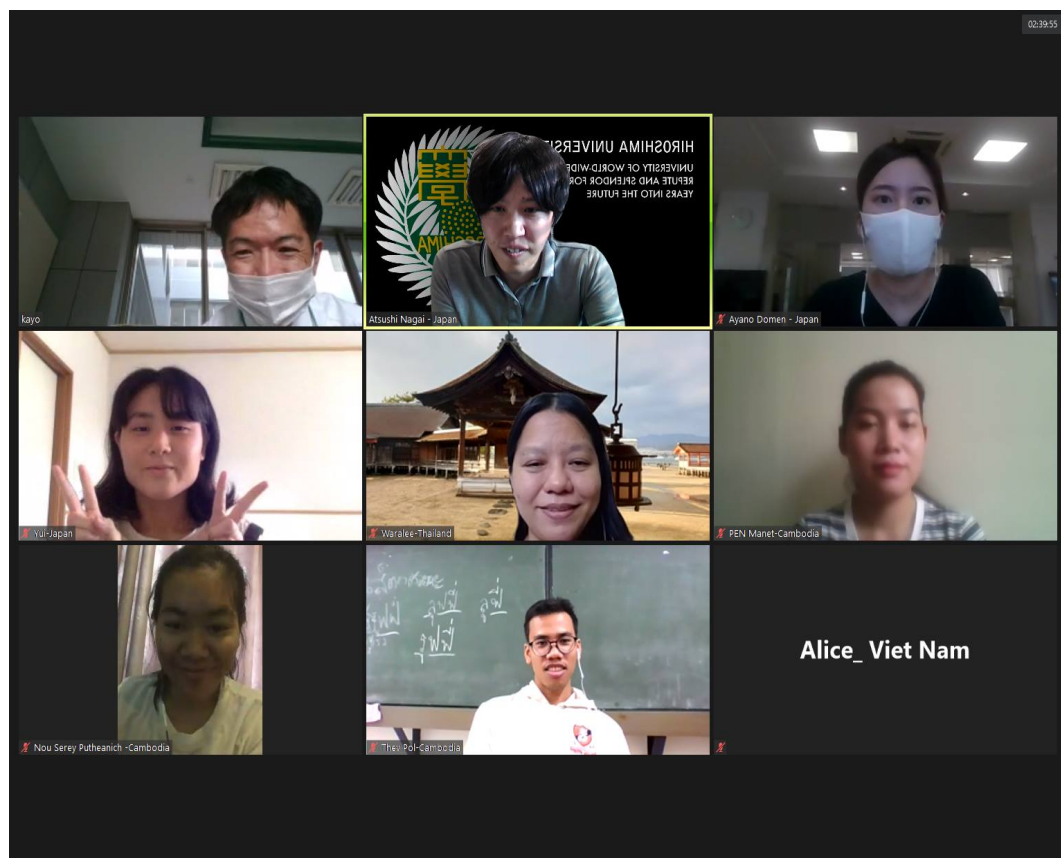
*ミュンスター大学（ドイツ）が開発したアイデア発掘手法を教育に応用した問題解決型ワークショップ

感染症対策の上、対面で実施



- 十分な感染症対策を行った上で実施
- 大学キャンパスが位置する東広島市の将来（多文化共生社会の実現）について議論
- 東広島市の市議1名も参加し、議論の話題提供を行った

オンライン平和教育（8/6）

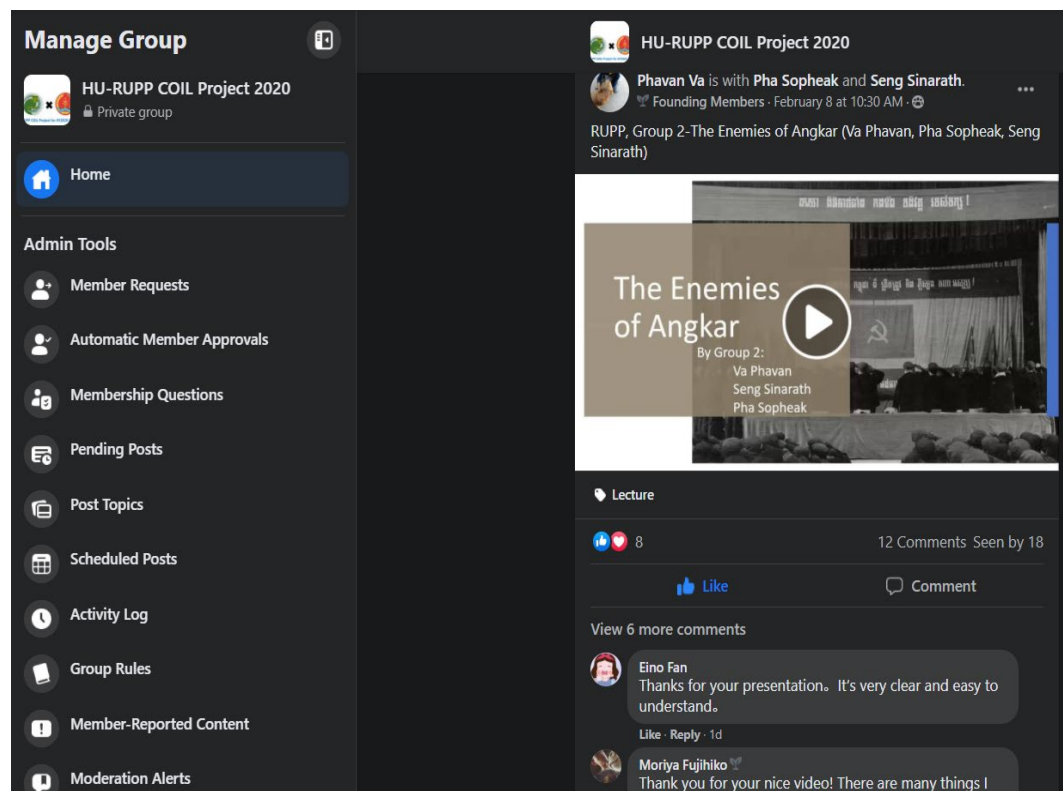


- ・カンボジア、タイ、ベトナム、日本からプログラム修了生（2017-2020）が参加

- ・ヒロシマの戦争記憶の継承について対話セッションを実施

- ・広島で被爆者の方々とともに平和活動を行う大学スタッフがゲストとして参加

オンライン国際協働学習（COIL）



- 王立プノンペン大学と連携（2017年から実施している*）

- カンボジア内戦の歴史および第二次世界大戦時の広島を対象とし、比較を通じた協働学習を実施

- 2020年度のCOILはFacebook上で基本的にやりとりを行う（左の写真はカンボジア学生が作成した内戦についての講義動画を共有している箇所）

*本COIL実践の一部をまとめたものは以下の形で出版されている（関西大学HPから登録の上、ダウンロード可能）：
永井敦（2019）、「平和に関する比較研究COILプロジェクト」『I-Paper（9月号）』関西大学グローバル教育イノベーション推進機構(IIGE). 10-13.

これまでの総括

- 目標値の達成状況（**2016-2020**）

対象国	派遣計画達成率	受入計画達成率
カンボジア	96%（47）	72%（33）
ラオス	70%（14）	40%（2）
ミャンマー	29%（11）	51%（18）
ベトナム	39%（21）	66%（63）
タイ	50%（16）	50%（13）

* 端数は切り上げ

* （ ）内は実数

プロジェクトの特色

- UCTS学修計画書及びUMAP成績証明書を活用した単位互換の促進
- BEVIを活用した留学の効果測定
- SDGsアイデアマイニング学生セミナーの提供
- カンボジア拠点の設置と活用
- 広島経済大学との共同教育
- ヒロシマの地域性を生かした平和教育

単位互換*の促進

<UCTS学修計画書（受入学生）>

Hiroshima University | PEACE Student Exchange Program

3. DETAILS OF THE PROPOSED UCTS STUDY PLAN

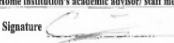
[NOTES]: ● To be completed and signed by student and counter-signed by the academic advisor/ staff members of both institutions.
● In addition to professional courses that students will need to take, PEACE (undergraduate) students whose period of study abroad will be one term or more are required to take a course titled *Study on International Issues and Challenges*.

Host Institution (Hiroshima University)		(Your) Home Institution		Credits	
Course #	Title	Course #	Title	HOST Credits	HOME Credits
	Special Study on International Study Issues and Challenges (Education)		Applied Ethics	2	3 (※)
	Research Methods in Education		Philosophical Research Methods	2	3 (※)
	Decision Making Analysis in Education		Social & Political Philosophy	2	3 (※)
	Sustainable Development in Education		Epistemology	2	3 (※)

NOTE: If necessary, continue the list on a separate sheet, including any changes to the approved program.

4. CONFIRMATION OF AGREEMENT ON STUDY PLAN BY ALL THREE PARTIES

This form must be signed by student and also counter-signed by the academic advisor/staff members for both institutions' approval.

Student	Home institution's academic advisor/ staff member	Host University's academic advisor/ staff member
Signature 	Signature 	Signature 
	Title <i>Program Assistant</i>	Title <i>Program Officer</i>
Date February 16, 2017	Date <i>March 15, 2017</i>	Date <i>June 30, 2017</i>

※ 派遣元大学にて1単位相当の課題を履修することにより、3単位に互換する。

<UMAP成績証明>

UMAP CREDIT TRANSFER SCHEME (UCTS)
RECORD OF TRANSCRIPT (Inbound) 2018-2019

1. STUDENT'S PERSONAL DATA

To be completed by the student. The information provided in this form will be treated in confidence by the home and host institutions. Data from the form may be used for UMAP/UCTS statistical purposes, but only in an aggregated and non-identifiable manner.

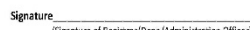
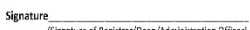
Student Name		Date of Birth	
Student ID (Home Institution)		Sex	
Home Institution		Country	

2. RECORD OF TRANSCRIPT

Host Institution (Hiroshima University)				Home Institution			Host	Home	Credit Type
Course #	Course Title	Term	Grade	Course #	Course Title	Grade	Credits		
									☐ Elective ☐ Required
									☐ Elective ☐ Required
									☐ Elective ☐ Required
									☐ Elective ☐ Required
									☐ Elective ☐ Required
									☐ Elective ☐ Required

If necessary, continue the list on a separate sheet ("4. ADDITIONAL SHEET" FOR RECORD OF TRANSCRIPT)

3. CERTIFICATION OF UMAP STUDY PROGRAM

Host Institution (Hiroshima University)	Home Institution
Signature 	Signature 
Date (Year) (Month) (Day)	Date (Year) (Month) (Day)

This document is not valid without the signature of the registrars/dean/administration officers of the host and home institutions.

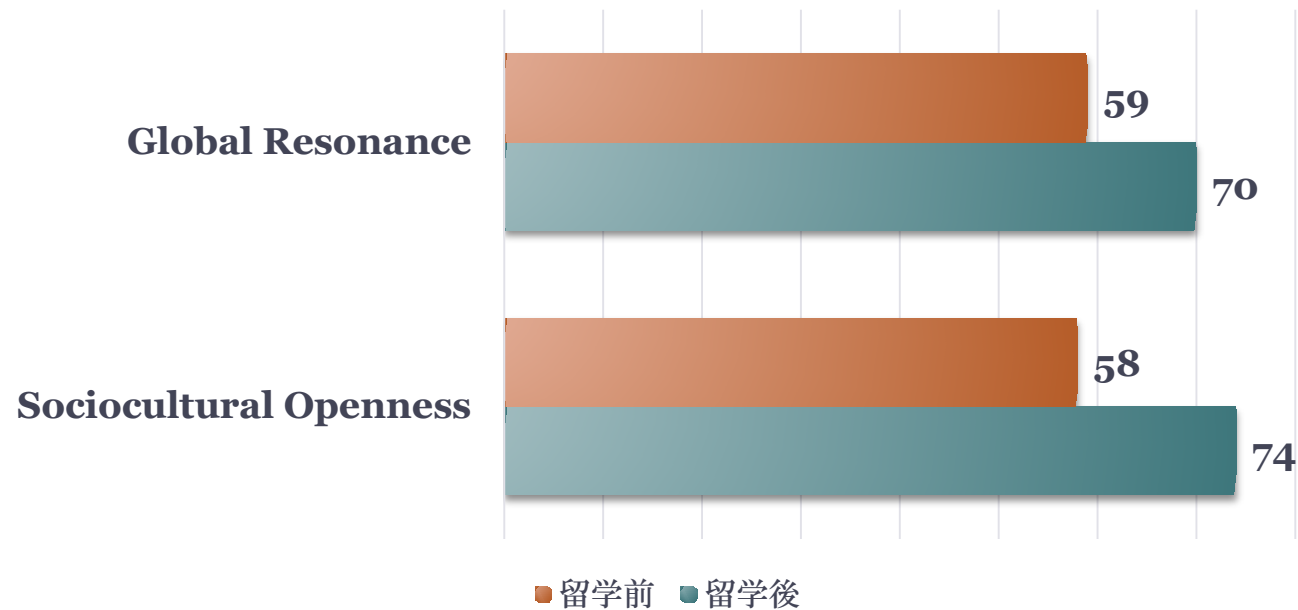
Page 1

互換単位数実績（延べ）：110単位（派遣）、539単位（受入）

* 本学で前提としているUCTSおよびアジア地域での単位互換の動向の詳細については以下の文献を参照されたい：
Hotta T. (2019). "The Development of "Asian Academic Credits" as An Aligned Credit Transfer System in Asian Higher Education." *Journal of Studies in International Education*, 1-23.

BEVI^{*}による留学の効果測定

＜派遣学生2016-2020, N=62＞



^{*} 本学で活用しているBEVIについて以下の文献を参照されたい:

西谷元(2017).「留学効果の客観的測定・プログラムの質保証: The Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI-j)」『広島大学高等教育研究開発センター 高等教育研究叢書』第137号, 45-70

アイデアマイニング

- 2017年より春学期及び秋学期に各1-2回開催
- 参加者は毎回15～20名の日本人学生と留学生
- テーマは必ずSDGsに関係するものを選定
- * 世界展開力強化事業の枠を超え、広島大学の大学院共通教育にも活用（2019年度より）

カンボジア拠点

- 「広島大学－カンボジア王国教育、青年、スポーツ省連携センター」を2017年に設置
- 派遣学生の支援から教員の現地訪問支援、現地スタディツアー（2018-2019）実施支援、現地学生のリクルーティングまで幅広くサポート
- 王立6大学との大学間交流協定締結（2017年）、カンボジア教育大臣来訪（2018年）、カンボジア王国教育・青少年・スポーツ省の長官ほか25名の政府関係者25名の訪問受入（2018年）などを実現

広島経済大学との共同教育



SDGsアイデアマイニング学生セミナーを広島経済大学所有のセミナーハウス（宮島）で2大学合同で開催



ビジネス分野に強い広島経済大学の教員による（社会）起業セミナーを広島大学で開催

ヒロシマの平和教育



平和記念公園訪問と被爆体験講話聴講



被爆者の方々との文化交流（書道）



被爆者の方々と留学生による
平和のオブジェ協働制作



8月6日の広島平和記念式典に留学生
と日本人学生が一緒に参加

コロナ禍の各採択大学の現状

【派遣関係】

- 令和2年度渡航を伴う形での学生の海外派遣・留学はすべて中止又は延期（5月に学生の海外派遣の全学方針を策定）
- 渡航の代替として、オンラインを用いた海外大学の教員・学生との教育交流プログラム「e-START」を新設。後期より7コース・約60名の本学学生が参加。

【受入れ関係】

- 新渡日留学生の受入れについて、10月よりレジデンストラックに基づく受入れを開始（渡日・待機計画を一元的に管理する体制を整備）

【その他】

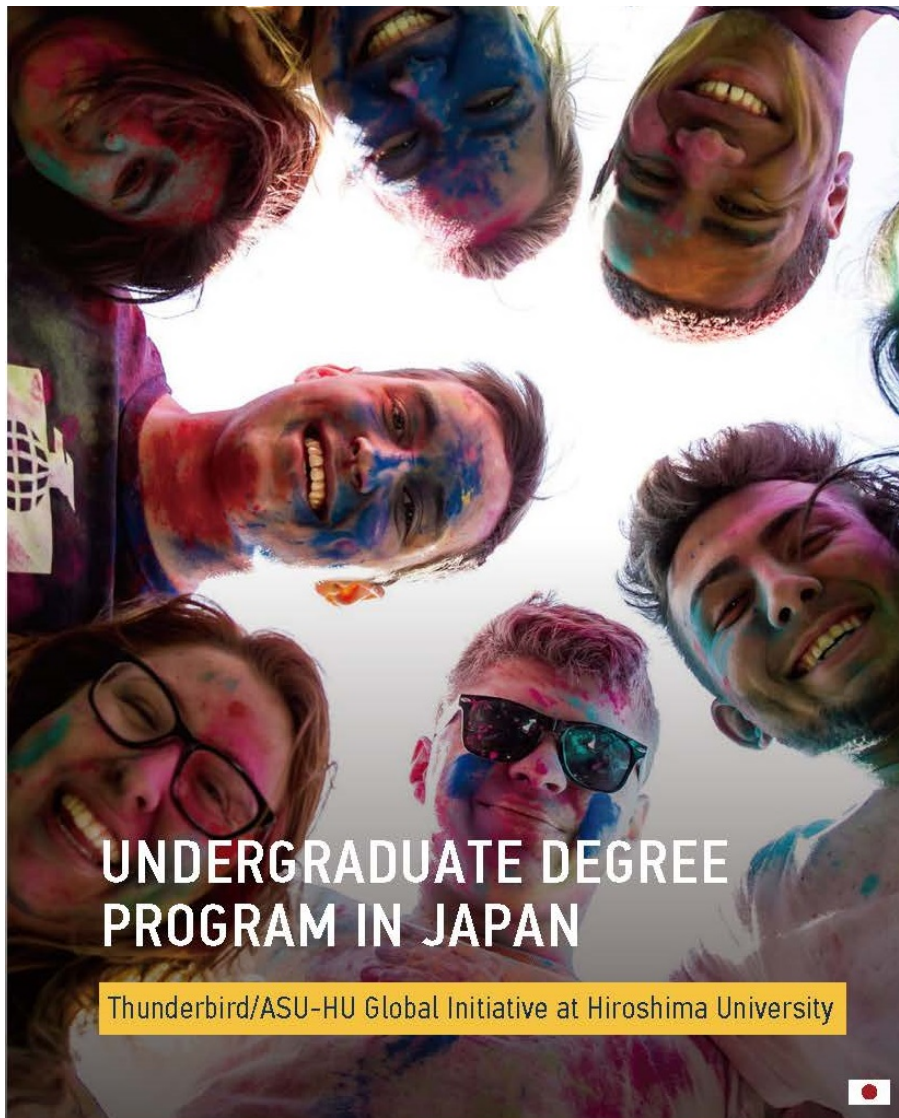
- 4月下旬より「応急学生支援金」として、収入の減少などで生活に困窮している学生への支援を実施（月額3万円）

ポストコロナの学生交流の方針

- 伝統的な学生交流形態からの高度化を追求
 - blended型学習を含む多様な学習の形
- オンラインでの国際教育を加速
 - e-START（本学独自の短期プログラムのオンライン版）及びCOIL科目の増加
- プログラムの持続可能性を追求
 - 広島大学基金、オンライン留学など

海外大学のキャンパス 誘致による国際化の推進

- 「アリゾナ州立大学/サンダーバードグローバル経営大学院－広島大学グローバル校（グローバル・イニシアティブ）」を広島大学の東広島キャンパス内に設置*
- 外国大学のキャンパスを学内に設置するのは国立大学で初めての取り組みであり、国立大学の国際化及び学生交流のさらなる進展を期待



UNDERGRADUATE DEGREE
PROGRAM IN JAPAN

Thunderbird/ASU-HU Global Initiative at Hiroshima University



慶應義塾大学

アジア発グローバル法曹人材養成プログラム

アジア発グローバル法曹人材養成プログラムについて

- メコン地域6カ国7大学と連携し、新たな法的課題に対応するためにリーダーシップを発揮できるグローバル法務人材の養成を目指したジョイント・プログラム「アジア発グローバル法務人材育成プログラム」(PAGLEP)。
- 中心テーマとして、メコン地域諸国および日本における「法の支配 (the rule of law)」の構築。

令和2年度の実施状況

- 受入
入国制限により、交換留学生（半期）およびLL.M.正規生（1年）のほとんどが入国できていない。入国まで、オンラインによる講義を受講。
母国の通信環境等によりオンライン講義の受講が困難であるため、留学を断念した学生もいる（9月受入の半期交換留学生1名（ベトナム）がキャンセル）。
短期プログラムも実渡航が困難であるため、オンラインにより実施。
- 派遣
短期プログラム（3ヶ月未満）、中長期プログラム（3ヶ月以上）ともに実渡航ができないため、オンラインにより実施。
中長期プログラムは、当初の渡航予定先（カンボジア）がオンラインによる留学が受入不可となったため、ベトナムに変更。

表1：令和2年度の学生の派遣・受入状況

	3ヶ月未満	3ヶ月から6ヶ月（単位取得型）	1年（学位取得型）
受入	18名（ベトナム（6）カンボジア（4）ラオス（4）ミャンマー（3）タイ（1））	1名（ミャンマー） *当初受入予定は2名	4名（ベトナム（2）ラオス（2））
派遣	4名	1名	－

令和2年度の実施状況

オンラインによる留学プログラムの実施

<3ヶ月未満受入・派遣>

「日本とメコン地域諸国における法の支配の進展」
の開催（9月）

- ・メコン地域諸国連携6大学と共同で5日間実施
- ・22名の学生が参加（日本（4）、ベトナム（6）、カンボジア（4）、ラオス（4）、タイ（1）、ミャンマー（3））
- ・講義，法律事務所等へのインタビュー調査，文化交流，事前課題に関するプレゼンテーションとディスカッション

オンラインプログラムの充実に向けた工夫

○アジアにおける法の支配の進展について、立体的・横断的に考える機会となるよう、講義やインタビュー調査はメコン地域諸国および日本全てで実施。

◎チャットボックスを活用し、学生からの質問や問題提起がしやすい環境作り。

→ネット環境が不安定な学生やスピーキングに自信のない学生も授業で発言できる。

対面授業以上に積極的・双方向の議論が展開される。



学生（ミャンマー）プレゼンテーション（2020年9月）



参加者たちの集合スクリーンショット（2020年9月）

令和2年度の実施状況

オンラインによる留学プログラムの実施

<半期・1年受入・3ヶ月以上派遣>

- ・オンラインによる講義の受講や研究指導。
 - ・留学生は、入国可能な学生から順次来日。
→12月に9月入学・学位取得型プログラム正規生（2名、ラオス）が入国。
- *ただし、多くの学生が入国できていない。

プログラム全体の総括

【学生の受入・派遣について】

- 令和2年度を除き，ほぼ計画通り，学生の受入・派遣を達成。
- 連携全6大学との間で，交換留学の受入枠組みとなるMoAを締結。

表2：平成28年度から令和2年度の学生の派遣・受入状況

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
派遣 (目標数)	16 (6)	20 (15)	20 (15)	21 (21)	5 (21)
受入 (目標数)	1 (1)	20 (21)	45 (21)	47 (42)	23 (42)

プログラム全体の総括

【今後の展開】

- 学位取得型プログラムのさらなる促進に向け、既に2校とデュアルディグリー協定（授業料相互免除）を締結（ハノイ法科大学、ホーチミン経済・法科大学（いずれもベトナム）。タマサート大学（タイ）とも締結間近。

⇒デュアル・ディグリー協定を中心とした学生間交流枠組みの構築。

- 日本人の中長期派遣が可能となるよう、司法試験と留学の両立が可能なプログラムの推進（ギャップタームの活用）。
- オンラインと実渡航を組み合わせたプログラムの構築。

【学生への経済的支援】

- 留学生および日本人学生に対する継続的な留学支援および教職員の相互交流を促進するために「**アジアにおける法学教育連携推進資金**」を設置
- 様々な留学生受入枠組みへの参加（国費留学生優先配置措置への採用、JICA大学院連携への参加）

明治大学

CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造

1 明治大学の取組について

■事業の目的

日本の過去の教訓を踏まえた「先進的なアジア型の将来都市構想」と、これを実現する「共創的教育システム」を創造すること

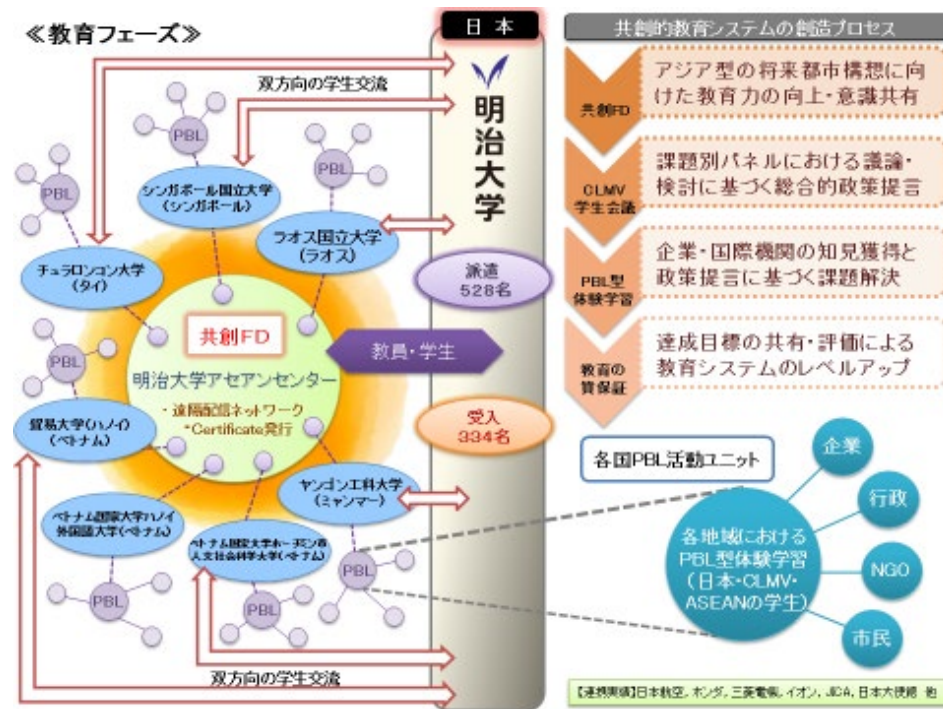
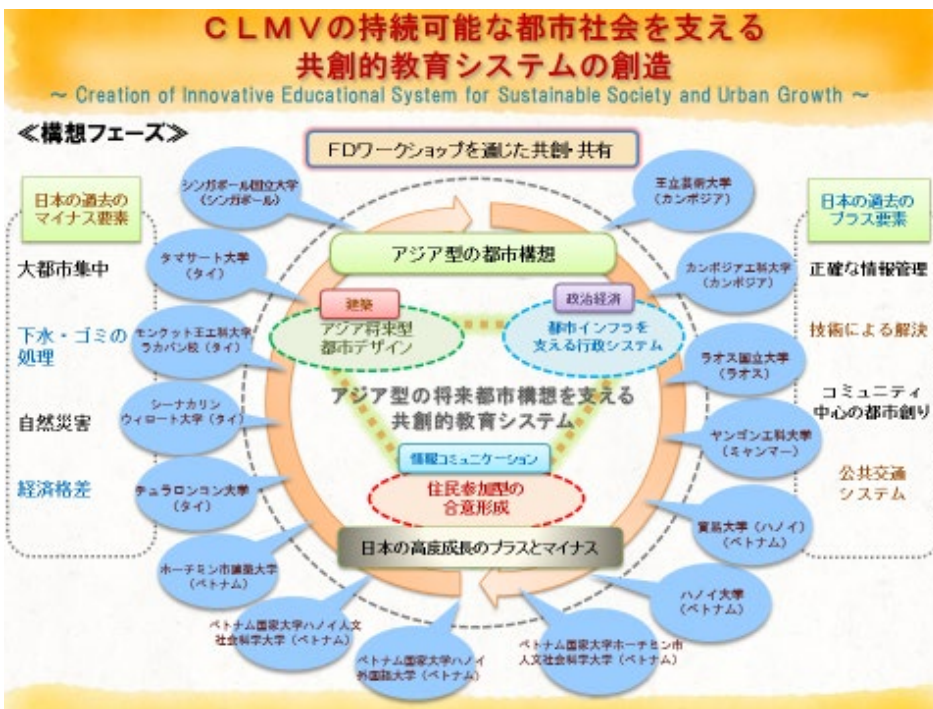
■三つの取組部局

- ・政治経済学部
- ・情報コミュニケーション学部
- ・理工学部建築学科及び理工学研究科建築・都市学専攻

1 明治大学の取組について

二つのフェーズ

- ✓ ASEAN・CLMV連携大学との協働で生み出す「構想フェーズ」
- ✓「先端的なFD」と「PBL型体験学習」を通じてCLMV連携大学の教育カリキュラムに実体化してゆく「教育フェーズ」



＜構想フェーズ＞

＜教育フェーズ＞

2 令和2年度の事業実施状況とこれまでの取組

(1) 3部局の主な取組

- ・採択後から令和元年度末まで、計画に基づき着実にプログラムを実施し、派遣・受入学生数の目標を概ね達成
- ・令和2年度についてはほとんどの実留学プログラムの実施を中止

令和2年度の主な実施状況

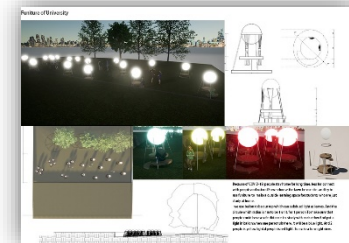
①政治経済学部

- ・8月から、シーナカリンウィロート大学経済学部へ1名が学部間協定留学(オンライン留学、1学期間)
- ・例年2～3月にホーチミン及びハノイで実施している「ベトナム短期留学プログラム」を、今年度はオンラインプログラムとして2月に実施し、12名の学生が参加

②理工学部

- ・11月のNUSの講評会と12月の本学の授業へ双方の教員が参加
- ・1月にチュラロンコン大学とオンラインで合同ワークショップを開催し、先方から10名、本学から11名の学生が参加

<https://www.meiji.ac.jp/sst/information/2020/6t5h7p00003ad3ab.html>



理工学部オンライン合同プログラム(生田キャンパスに設置するファニチャーの提案)

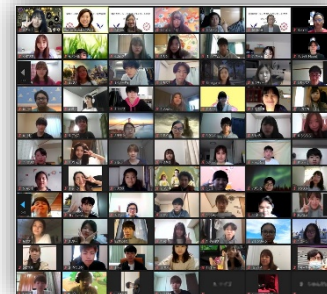
③情報コミュニケーション学部

- ・「オンライン・プレ留学プログラム(特別聴講生)」を11月～2月に実施し、シーナカリンウィロート大学から6名、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学から2名の学生が参加

https://www.meiji.ac.jp/infocom/office/online_prestudy_abroad.html

- ・11月にシーナカリンウィロート大学とのオンライン学生交流プログラムを実施し、先方から38名、本学からは42名の学生が参加

<https://www.meiji.ac.jp/infocom/information/2020/6t5h7p00003a6im1.html>



情コミ学部 オンライン学生交流

2 令和2年度の事業実施状況とこれまでの取組

(2)2017年度～2019年度 「共創FDワークショップ」「CLMV学生会議」実施

- ・毎年8月下旬に3日間、明治大学アセアンセンター(バンコク)に、交流先大学から教員・学生を招聘、本学から取組部局の教員・学生が集まり実施
- ・活発な議論やフィールドワークを通じ、各国が抱える都市化に伴う課題を共有・解決へ向けた提言にまとめるべく「アジア型の将来都市構想」の可能性について国籍や専門分野を超えて協議
- ・2020年度も8月に実施する計画で準備していたが、COVID-19の影響により8月の実施を中止。学生・教職員の安全に配慮し慎重に協議を重ね、実施方法および実施時期の検討を続けていたが、各国の渡航制限の状況や感染症拡大の影響に改善が見られないことから、最終的に実施を断念



2019年8月 共創FDワークショップ・CLMV学生会議(タイ・バンコク)

2 令和2年度の事業実施状況とこれまでの取組

(3)「国内版PBL型体験学習」プログラムを実施

①東京湾岸エリア及び大丸有地区(大手町・丸の内・有楽町)視察実施 (2018年11月7日)

- ・(独)都市再生機構(UR都市機構)・(株)三菱地所・(株)三菱地所設計のご協力の下, 都市形成プロセスについて講義の後、晴海・大手町・丸の内・有楽町エリアを視察
- ・タイ等の協定校からの受入学生8名が参加



大丸有エリア視察

②渋谷駅周辺エリア(再開発地区)視察実施 (2019年9月25日)

- ・渋谷ヒカリエ及び渋谷ストリーム等の商業地区および渋谷川周辺エリアの再開発について、東急株式会社等の同地区開発企業から講義を受け、視察を実施
- ・カンボジア・ベトナム・シンガポール・タイ協定校からの受入学生29名が参加



渋谷ヒカリエ視察



渋谷ストリームでの集合写真

2 令和2年度の事業実施状況とこれまでの取組

(3)「国内版PBL型体験学習」プログラムを実施

③ 「JR高輪ゲートウェイ駅周辺地域のまちづくり」実施 (オンライン・2021年1月13日)

- ・カンボジア・ラオス・ベトナム等の協定校学生41名、本学学生5名、協定校外の学生や過去に本学での留学経験のある海外学生、協定校の教員等、計67名参加
- ・東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)、設計者であるPickard Chilton(アメリカ)、設計共同企業体(JR東日本設計・JR東日本コンサルタンツ・日本設計・日建設計)、トライポッドスタジオのご協力の下、プロジェクトに関する講義を実施
- ・参加学生を3グループに分け、各グループにファシリテーターとオブザーバーを配置し、グループディスカッション実施した後、全体セッションで教員からコメント



2 令和2年度の事業実施状況とこれまでの取組

平成28度～令和2年度 交流プログラムにおける学生のモビリティについて

日本人学生の派遣

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度 /令和元年度		令和2年度		合計	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
人数	35	38	121	133	122	115	124	114	126	0 (65) ※1	528	400 (465) ※2

※1()内はオンラインプログラム参加学生数

※2()内はオンラインプログラム参加学生数も含む

2 令和2年度の事業実施状況とこれまでの取組

平成28度～令和2年度 交流プログラムにおける学生のモビリティについて

外国人学生の受入

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度/令和元年度		令和2年度		合計	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
人数	6	6	80	73	80	89	84	99	84	0 (59) ※1	334	267 (326) ※2

※1()内はオンラインプログラム参加学生数

※2()内はオンラインプログラム参加学生数も含む

3 今後の学生交流の方針

- ・令和3年度の事業継続のための学内予算を確保
- ・プログラム実施のための協定校との協議はリモートで継続して実施
- ・当面はオンラインを中心としたプログラムの実施及び学生交流機会の創出を検討
- ・オンライン・対面のメリットを組み合わせたハイブリッド型交流プログラムの検討・実施
- ・外務省の海外安全情報の危険レベル・関係各国の渡航制限・学内の活動制限指針について慎重なモニタリングを継続しながら、対面でのプログラム再開へ向け準備